成蹊大学文学部スペシャル・レクチャーズ

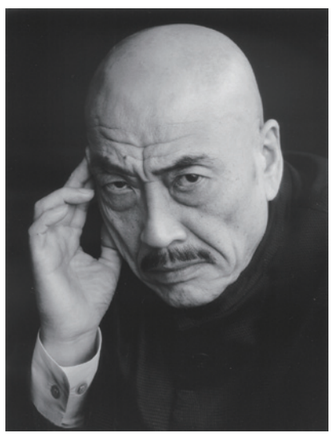
撮影：荒木経惟

舞踏の生まれるところ

麿赤兒と大駱駝艦
武蔵野文化

今年創立47年目を迎えた、舞踏カンパニー「大駱駝艦（だいらくだかん）」。舞踏の身体性をもとに構築された独自の様式「天賦典式（てんぷてんしき）」（この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とす、との意）は、その圧倒的なスペクタクル性で世界中に「BUTOH」の名を浸透させてきました。
主宰者で舞踏家、俳優の麿赤兒氏を迎えた今回のレクチャーでは、舞踏とは何か、「天賦典式」の成立の背景など、創作の核に関わる思想についてはもちろん、種田山頭火を題材にした新作のこと、吉祥寺にあるアトリエ「壺中天」での艦員たちとの日常についてもお話をうかがいます。
さらに艦員たちによるスペシャル・パフォーマンスも上演。聖と俗、悲哀とユーモアを併せ持ち、観客を異世界へと誘う大駱駝艦の世界観とはいかなるものか。この機会にぜひ体感してください。

［ 出演者 ］ 麿赤兒（大駱駝艦主宰・舞踏家・俳優）・大駱駝艦
［ 司　会 ］ 鈴木理映子（編集者・演劇ライター）



麿赤兒（まろ・あかじ）
1943年生まれ、奈良県出身。66年より舞踏家土方巽に師事。その間、唐十郎との出会いにより状況劇場に参加。唐が唱える「特権的肉体論」を具現する役者として演劇界に大きな衝撃を与える。72年、舞踏集団「大駱駝艦」を旗揚げ。天賦典式と名付けたその様式は国内外で大きな話題となり、「BUTOH」が世界に浸透。舞踏家・俳優・振付家・演出家としてジャンルを越境し、舞台芸術の分野で先駆的な地位を確立している。1974年、87年、96年、99年、2007年、2012年舞踊批評家協会賞受賞。2006年文化庁長官表彰。2012年ダンスフォーラム賞・大賞受賞。2016年東京新聞制定・第64回舞踊芸術賞受賞。2018年種田山頭火賞受賞。

鈴木理映子（すずき・りえこ）
演劇情報誌「シアターガイド」編集長を経て2009年よりフリー。編集を担当した冊子、書籍に『遊びをせむとや航行す 大駱駝艦の非常なる日常』（モーニングデスク）、『＜現代演劇＞のレッスン』（フィルムアート社）など。監修に『日本の演劇　公演と劇評目録 1980年～2018年』(日外アソシエーツ)。青山学院大学総合政策学部附置青山コミュニティ・ラボ（ACL）特別研究員。

2019
10.27 SUN
14:00 – 16:00
開場 13:30

会場：成蹊学園本館大講堂

お問い合わせ
成蹊大学部文学部共同研究室
［月～金 9:00～17:00（祝日をのぞく）］
TEL 0422-37-3640

※入場無料・ウェブサイトからの事前申込が必要です
参加ご希望のかたは右のQRコードより、10月23日（水）までに事前申込をお願いします。300名の定員に達し次第、応募を締め切らせていただきます。申込終了時に送信されるメールに受付順に整理番号が付されています。当日は整理番号順にご入場いただきます。メールを印刷してお持ちいただくか、スマートフォンの画面などに表示して受付でご提示ください。なお、席はすべて自由席となります。会場の都合上、開場時間（13:30）以前に大学構内およびその近辺でお待ちいただくことはできません。開場時間に合わせてご来場ください。